



ごろはち だいみょうじん

中川正文 さく
梶山俊夫 え
福音館書店

カシヤ

ごろはちは、いたすらものためき。村人はみな、たいてい一度はだまされています。ある日、村に駅ができ、鉄道が敷かれました。初めて汽車を見た村人たちは、ごろはちのいたすらだと思い、線路に飛び出してしまいます。



こんとあき

林明子 さく
福音館書店

ハヤシ

きつねのぬいぐるみのこんは、あきが赤ちゃんのときからいつも一緒。ある日、こんの腕がほころびてしまいました。さきゆうまちのおばあちゃんに直してもらうため、こんとあきは汽車に乗って出発!さあ、冒険の始まりです。

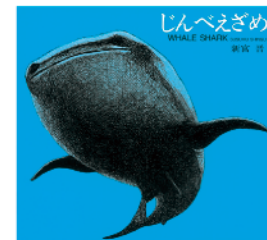


ジローと ぼく

大島妙子 作・絵
偕成社

オオシ

犬のジローとぼくは、子犬のころからいつも一緒。だんだん大きくなってきて、ジローは犬小屋で寝ています。ところが、ある朝起きてみると、ぼくとジローが入れ替わってしまいました。ぼくは元に戻れるのでしょうか。



じんべい ざめ

新宮晋
扶桑社

シンク

じんべいざめは、この地球上で生きている魚の中で1番大きく、体長18メートル、体重40トンにもなると言われています。光あふれる青い海の中、ゆうゆうと泳ぐじんべいざめの姿を、様々な角度から描いています。英語が併記されています。



じごくの そうべえ

桂米朝・上方落語・
地獄八景より
たじまゆきひこ 作
童心社

タシマ

軽業師のそうべえと歯抜き師のしかい、医者の子くあんと山伏のぶっかい。火の車で地獄へやってきた四人は、おそろしい鬼やえん魔大王を相手に大暴れ!上方落語『地獄八景亡者戯(じごくばっけいもうじゃのたわむれ)』を絵本にしました。



しにがみさん

柳家小三治・
落語「死神」より
野村たかあき
教育画劇

ノムラ

死神に医者仕事を世話してもらった男。たちまち名医と評判になりますが、それには秘密がありました。大金持ちになった男はぜいたくざんまい。お金を使い果たしてしまい……。オチが楽しい落語『死神』の絵本です。



ずーつと ずつと だいきだよ

ハンス・ウィルヘルム
えとぶん
久山太市 やく
評論社

ウイル

犬のエルフィーとぼくは、いつも一緒にいました。時がたつにつれ、エルフィーは寝ていることが多くなり、階段も登れなくなっていました。それでもぼくは、必ず寝る前に言います。「エルフィー、ずーつと、だいきだよ」と。



せかいいち うつくしい ぼくの村

小林豊 作・絵
ポプラ社

コハヤ

バグマン村に住むヤモは、はじめてロバのポンパーとまちへくだものを売りに行くことになりました。戦争に行っている兄さんかわりに、父さんの手伝いをするのです。アフガニスタンのまちの様子や、人々の暮らしが伝わる絵本です。



じゅべい

川端誠
クレヨンハウス

カフハ

お寺の和尚さんに相談して、男の子にめでたい名前をつけようとしたら、選びきれずにとてもともて長い名前になってしまいました。みなさんと存知の落語『じゅべい』の絵本。「じゅべいじゅべい……」言えますか?



しろうさぎと くろいうさぎ

ガース・ウイリアムズ
ぶんえ
まつおかきょうこ やく
福音館書店

ウイリ

森に住むしろうさぎとくろいうさぎは、毎日楽しく遊んでいました。くろいうさぎがとても悲しそうなる顔をしたので、しろうさぎは「どうしたの?」と聞きました。「ぼく、ちょっと考えていたんだ」と、くろいうさぎ。心が温くなる絵本です。

ちょっとひとやすみ 10

小学校にあがる頃には、字を覚え始めます。ここで、読み聞かせは終了だと思っ
ていませんか。一人で絵本の字を追って、たどたどしく読んでいる子どもも見
受けられます。きっと字を読んでいるのが精一杯で、物語を楽しん
ではないと思います。まだまだ親の手助けが必要です。絵
本から幼年文学、そして児童文学に行き着くまで、読み聞かせを
続けてください。子どもから「もう一人で読むから」という言葉が
発せられるまで、どうぞ続けてくださいね。

